公益社団法人
日本山岳会
群馬支部報
JAC GUNMA
第９号
2019年
1月16日

さらなる高みへ　支部活動の広がりを

公益社団法人日本山岳会　群馬支部長　北原　秀介

明けましておめでとうございます。

昨年は支部主催「健康登山塾」の開催、「ぐんま県境稜線トレイル」の開通に伴う担当区間の表示板取り付けと全線踏破、「ぐんまの山歩き130選」改訂出版の取材山行と非常に忙しく充実した活動年間でした。

特に「ぐんま県境稜線トレイル」の全線踏破では、多くの支部員のサポートを得ながら公称100km（実距離127km）を歩き遂げたことに支部の結束が一段と増したと感動しています。

そして、今年は支部がどのような方向で活動を展開するかです。昨年、好評のうちに終えられた健康登山塾は齋藤繁塾長指導のもと今年も新たな塾生を募り、さらに高崎健康福祉大学の大家さんの協力を得て内容に変化を持たせて継続する予定です。同時に昨年の塾生が今後どのようにわれわれ群馬支部と関わりを持ってくださるか楽しみです。また、武尾事業委員長が新たな事業案を提示しており、どのようにそれらを実現できるかも期待されます。

群馬支部がこれから永く活動を続けていくことを考えると、大きな問題は支部役員の若返りです。支部の活動計画は役員会で立案し、例会で皆さんの賛同を得て実施しています。しかし、現在の役員の平均年齢が60代後半であり、個々がいつフェードアウトしても不思議ではない状態にあります。これは防ぎようのない現実であり、そのためには若い方々に早いうちから支部運営に参画していただこうと考えています。今後の活動が円滑に成されるよう組織の再編も考慮し、比較的若い世代に各分野のお手伝いをお願いすることで支障なく引き継ぎをしたいものと考えています。

2025年には、日本山岳会発足120周年となり、本部においてさまざまな計画が立案されています。大きな記念事業として、日本が足跡を残したヒマラヤ山脈（東のナムチャバルワから西のナンガ・パルバットまで約5000km）のロングトレイル踏破も発案されています。このような事業にも群馬支部から参加ができるよう、一体となって活動することで支部全員が登山への意識の向上ができるよう努めていきたいと思います。

リレーエッセイ⑨「スイスアルプスへの山旅」

８月20日から、武尾、宮川さんと16日間の３人フリー旅。グリンデルワルト、ツェルマット各１週間のアパート滞在です。出発の成田空港での荷物検査でスペアバッテリーが入っていて全て開けられひと騒ぎ。チューリッヒまで12時間の狭い座席での運動不足とよく寝られず、その上義歯が壊れ、多い機内食で腹を壊して旅中食事が心配でした。

翌日、チューリッヒからグリンデルワルトへの鉄道旅の始まり、空港駅で２人にはぐれ、外国語が話せずやっとインターラーケン駅で二人に会えました。グリンデルワルトに着いての山行ではロブホルンでの雷雨で道を迷いやっと小屋まで戻るなど２人には大変心配、迷惑、苦労かけました。苦い経験も多々あるが、良い思い出もたくさんあります。

スイスでは鉄道、ロープウェイ、ゴンドラリフトなど移動は豊富、標高2200mのフィリストに着くと８月なのに雪景色、その中バッハアルプゼー（きれいな湖）、また、ツェルマットからスネガへ。ステリゼー（池）映る、フルーエヒュッテ（2607m）からの朝焼けのゴルナーグラートからハイキングのマッターホルンなど、素晴らしい景色の写真を約1770枚も撮りまくってきました。良いお土産となりました（写真６面）。

今回のスイス行きは今までにはないものでした。２カ所に各１週間留まり、朝夕の食事はスーパーで食材、ワインを買い込み自炊（他の２人が）、山の行程も天候と私の体調に合わせてもらい、楽しく快適な旅行は初めての経験でした。こんな良い新しい山仲間ができたのは、この山岳会に推してくれた故田中君のおかげと感謝しています。　（寺内　正明）

新しいガイドブック刊行に向けて

副支部長　黛　　利信

昨年多くの方々に参加していただいた新ガイド調査山行は、群馬支部が担当する対象38コースのうち、保留している本白根山を除く全コースの実地調査を11月上旬までに終えることができました。延べで約30回の調査山行を敢行し、コース状況の把握とコースタイムの確認を行いました。

支部山行との連携、ぐんま県境稜線トレイルとの抱き合わせなど、支部の年間計画の中に位置づけて順調に進められたことは、支部の事業遂行力を示すものだったといえます。１つ反省点をあげますと、稜線トレイルで毛無峠にたどり着いたメンバーにそのまま御飯岳往復をさせてしまったことでした。大きな目標を成し遂げてゴールインした駿馬にさらに次のレースを強いるようなものでした。暑い日差しの中、手持ちの飲料水も底をつき、長時間の山行になってしまいました。日をあらためて行うべきだったと思います。

ガイドブックには、歩くことのほか、地図、入下山口へのアプローチあるいは問い合わせ先など関連情報を盛り込むことになります。これからはそれらを調べるデスクワーク及び全体的な整合を進める作業となります。そして、今年初秋前後には刊行できるよう引き続き支部の継続事業として取り組んでまいります。

調査山行の一コマ（尾瀬三条の滝）

群馬支部2019年度事業計画

幅広い多様な活動を

2018年11月28日の第31回例会で各委員会および事務局から来年度の事業計画について原案が示された。協議の結果その大筋が固まり翌週12月４日に開かれた役員会で、さらに広く深く議論され、次のような計画案が決まった。

これらは年明け１月に本部に提出される予算書、事業計画書に落とし込まれ、４月から始まる新年度の事業の骨組みとなる。２年目を迎える健康登山塾や自然保護委員会の本格的始動など、より幅広い多様な事業が盛り込まれる。

【山行委員会】

支部山行については、ぐんま百名山、上高地山研をベースとした北アルプス南部集中、県境稜線トレイル、尾瀬合宿、そして雪山入門など年６回実施することとし、事業委員会から提起されたウィークデー登山とも連携していく。

なお、今年度最後の山行として予定した丹沢は３月に実施予定。

【自然保護委員会】

昨年、新たに専任の委員長が決まり、来年度は支部員を対象とした、桐生鳴神山での絶滅危惧種のカッコソウを学ぶ自然観察山行を５月のゴールデンウイークかその翌週に予定する。

【事業委員会】

今年度起ち上げた「健康登山塾」をより充実させて継続するとともに登山塾OB会の結成を後押しする。またウィークデー登山を定期化し山行の幅を広げるなど。

【事務局】

群馬県山岳団体連絡協議会や県、みなかみ町、上毛新聞社などとも連携し、山フェスタ、山の日イベント、新ガイドブックの取材・編集などへの取り組みを継続強化していく。

（事務局）

恒例の尾瀬合宿

2018年10月13日（土）・14日（日）

支部山行委員長　田中　規王

紅葉真っ盛りの戸倉周辺、恒例となった尾瀬合宿（ロッジ長蔵泊）が開催された。今年は当日、赤城山で開催された健康登山塾、玉原高原で開催された自然観察会といったプレ事業に多くの会員がスタッフとして参加。夕方、ロッジ長蔵に駆けつけるかたちとなった。わたしは健康登山塾の後、前橋市内での用事を済ませ深井さんと二人で尾瀬に向かった。

ロッジ長蔵ではすでに日本酒、洋酒が空き、楽しそうな会話が飛び交っていた。ロッジ長蔵の平野顧問をはじめ北原支部長、栃木支部の前田事務局長、多くの会員よりお酒の差し入れがあり豪華で和やかな宴となった。

翌日14日の支部山行は、至仏山山頂を目指すグループと笠ヶ岳山頂を目指すグループとに分かれて実施。鳩待峠を８:00少し前にスタートした。今回は、新登山ガイドブック調査も兼ねているため、黛副支部長は鳩待峠から山の鼻に下り、至仏山山頂でグループに合流する計画で歩き出した。

わたしは笠ヶ岳CLとして参加した。メンバーは、中山さん、木暮さん、深井さん、田中の４人。途中までは、至仏山山頂を目指すチーム４人と共に和気

藹々。辺りには、ナナカマドの赤い実やレモンイエローがおしゃれなコシアブラ、アロマオイルのようなオオシラビソの爽やかな香りが漂っていた。オヤマ沢田代分岐で互いの無事を祈って至仏山チームと分かれ、我々は笠ヶ岳方面に左折した。

まもなくすると次から次へと現れるぬかるみ、10本以上の倒木に歩行ペースを崩された。小笠辺りから視界が広がり、絶景が目に飛び込んできた。「気持ちいい」「気分最高」と口々に笑顔で景色を楽しんだ。山頂直下にある片藤沼、湯ノ小屋方面との分岐からは、急坂の岩稜地帯で不明瞭。いつも遠くから見ていた綺麗な円錐型の笠ヶ岳。きっと360度大パノラマに違いない。尾瀬のシンボル至仏山と燧ヶ岳の両方が見えるはずと期待していたが、急に霧に覆われ視界０。山頂で昼食をとり笠ヶ岳を後にした。小笠で後ろを振り向くと霧は晴れ美しい笠ヶ岳が顔を出していた。笠ヶ岳に見送られ無事に鳩待峠に下山した。

全国支部懇談会に参加して

山邊　信利

（一部の方々を除きまして）群馬支部の皆様、はじめまして。なぜか現住所北海道札幌市にありながら、群馬支部所属となっております山邊と申します。

さる７月21、22日と全国支部懇談会・北海道に参加いたしました。北原支部長、根井事務局長、西田顧問と私の４人です。21日新千歳空港に集合した４人は、高速道路でひたすら黒岳ふもとにある層雲閣グランドホテルをめざします。約３時間程度で到着後、北海道の山を登り尽くされている写真家の講演を拝聴いたしました。その方によると大雪山系は女性的、日高の山々は男性的とのこと…。北海道に住む者として、日高の山々に多く登りたい気持ちが強くなりました。講演終了後旅の疲れを温泉で癒し、その後は登山よりも得意な懇親（宴）会です。全国各地の地酒がところ狭しと並べられ、登山＝酒という気持ちを一層強くしました。アイヌの踊りの披露もあり、北海道の歴史の一端に触れることもできました。

翌日は黒岳登山です。標高1989m、ただ我々の選択したコースはゴンドラとロープウェイで７合目まで行き、そこから頂上を目指すものです。当日は朝から天候がおもわしくなく、頂上までいけるかどうかの判断待ちがしばらく続いたのち、頂上目指してスタートです。標高差は約400mで結構な傾斜が続きます。さすが人気の山、登っていく人、降りていく人、大勢の方々が行き交います。およそ２時間後頂上到着です。心配された天気も回復し、頂上からは絶景が広がっておりました。しばらく景色を楽しんだ後、下山開始です。夕方には札幌ジンギスカンが待っているため、皆大急ぎで下山しました。

約４～５時間程度の登山でしたが、景色もよろしく、かなり楽しめました。北海道から本州に出て行くのは大変ですが、こちらでこのような行事が開催される際は積極的に参加させていただきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

埼玉支部と合同で初開催

玉原高原ブナ林・湿原自然観察会

群馬支部自然保護委員長　木暮　幸弘

日本山岳会埼玉支部・群馬支部自然保護委員会共催の「玉原高原ブナ林･湿原観察会」が10月13日（土）に行われた。

当日の天候は晴れ。群馬支部からは北原支部長のほか、黛さん夫妻、荒木さん、木暮の５人が参加。埼玉支部から７人（松本支部長、高嶋、多田、藤野、堀川、村越、渡邉）、「山の会すかんぽ」７人（沖川、野田、金子（和）、金子（英）、川上、奈良、米山）、本部自然保護委員会の川口委員長も参加して計20人で秋の玉原を散策した。

センターハウス前で12時20分に合流。昼食を摂った後、12時45分出発。行程は探鳥路コースからブナ平へ上がり、その後水源ルートを下って湿原に出るコース。

以下は、埼玉支部からの報告書を転記。

玉原高原・湿原の植生に地元の木暮幸弘氏（群馬支部自然保護委員長）に今回の解説を戴いた。センターハウスから探鳥路に入りブナ林を行く。足下には栗のイガが沢山落ちている。

「熊がブナの木に登る時に付けた斜めの痕、因みに降りる時の傷は縦に付く。ブナは年間３mmほど太くなるのでこの木は60cmほどなので200年位。ホオノキとトチノキの葉の形、アスナロ（翌檜）とヒノキの違い」など教えて貰う。

ブナの林ではキノコの宝庫である。食べられるキノコを学ぶのはリスクがあるので、毒キノコを知ろうと図鑑を頼りに自然観察指導員である村越さんと確認する、キリンタケ、クロトマヤタケモドキ、クロタマゴテングタケを確認できた。生死に関わる食べられるキノコについてはさらに勉強が必要だ。湿原との分岐の指導標は見事に熊にかじられている。シンナーの香りが好きなのか異物に興味があるのかクマに聞きたい！最後までクマ棚は見付けることは出来なかった。

花の季節が終わった秋の湿原はヌマガヤで彩られていた。木暮さんは湿原調整堰まで足を伸ばし、希少植物「ホソバノツルリンドウ」の花を我々に見せてくれ観察会は終わった。

群馬支部は翌日の尾瀬行のためハウス前での北原支部長の挨拶の中で今後のコラボを戴き解散した。

○10月13日土曜・玉原高原で観察できた植物

ブナ、チシマザサ、トチノキ、ホウノキ、ツリバナ、ウワミズザクラ、タムシバ、リョウブ、フユイチゴ、ツボスミレ、ダケカンバ、ナナカマド、ミズナラ、ヤマホトトギス、モウセンゴケ、ミズバショウ、クルマムグラ、アキノキリンソウ・ウラジロヨウラク、エゾリンドウ、ツルリンドウ、ナガバリンドウ

○キノコ

シロハツモドキ、ムキタケ、ドクベニタケ、カワラタケ、キツネノチャブクロ、ホコリタケ、イヌセンボンタケ

○野鳥

ヒヨドリ、コゲラ、メジロ、ウグイス、ヤマゲラ、アオサギ、ハシブトガラス

（村越百合子）

健康登山塾を終えて

支部事業委員長　武尾　誠

今期の健康登山塾が第７回目（11月17日）の講座で終了した。塾生25人の想定外の大所帯、支部初の有料独自事業など、難問を抱えつつも会員のみなさんの協力と医療スタッフの熱意で、つつがなく乗り切った。まずはみなさんに感謝申し上げます。

「好評だった」と言い切っていいと思う。６月に実施した塾生アンケートで、スタッフの対応を含めた満足度を点数化してもらうと、回答者全員が80点以上（満点６人、回答数19人）だった。医療スタッフは斎藤塾長以下、常時４人以上、会員によるサポートスタッフは10人になることもあった。

厚いスタッフ人員と配置も成功の大きな要因だが、当初定員15人のところに120人を超える応募があったことを加味すると、「健康」の２文字が人の関心を引いたと言ったら過言か。

世は過剰すぎるくらいの健康ブームだ。健康食品、サプリメント、スポーツジムなどなど。健康に良いとされる物や施設に人は強く惹きつけられている。この中での、「健康」に特化した登山教室。そして、健康指向の世相に何度目かの、山のブームが加わり、びっくりするくらいの応募が。ふたを開けても、医療、スポーツ、サポートスタッフの充実ぶりに、25人の第１期塾生は「顧客満足度」に高い評価を下したのではないか。

高揚の後の停滞。いつか下火になるのはブームの持つ必然だ。健康登山塾もブームだけに頼ったら、近い将来に節目が訪れるだろう。次年度以降は、「進化」と「深化」が求められると思っている。

群馬の藪山 ⑤

中山　達也

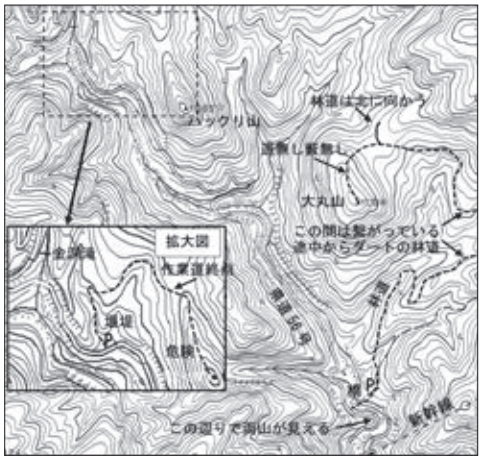
【ハックリ山】（1055m）、**【大丸山】**（1031m）
2007年３月初旬登山　2.5万図　軽井沢

ハックリ山、大丸山とも国土地理院2.5万図に山名の記載は無く、ほとんど登られていない山だろう。

２山とも霧積温泉に向かう県道の右（東）にある。

もう少し解り易く書くと国道18号、坂本の町をすぎ霧積温泉の案内に従い右に折れると県道56号に入る。

霧積ダムサイトから新幹線下をくぐり、左に大きくカーブすると、正面に見えてくる三角形の山がハックリ山でその右、肩をいからせているのが大丸山になる。



（注）記述は登った当時の状況で、現状は分かりません。地図、コンパスは必携です。

【ハックリ山】登り　約30分（休み無し）

県道終点（旧きりずみ館跡）手前右手、橋から金洞滝が見える。さらにその手前、右手に上下２つ堰堤があり上の堰堤が登山口になる（Ｐ）。向かって右の作業道跡から入った。堰堤の上で道があやふやになるが、少し行くと明瞭な道になり、やがてハックリ山の北の鞍部に出て作業道終点になる。

そのまま尾根に入り、小さなピークを超えると大岩の前に出る。右（西）側から大岩を抱く様に回り込む。ここだけ少し危険。さらに右から巻く様に登ると山頂。雑木に覆われあまり展望は良くない。

【大丸山】登り　約40分（休み無し）

新幹線をくぐり、両山を一瞬見て少し行くと右手に橋がある。この橋を渡り林道を行く。当時大丸山北東の鞍部まで車が入れたが、橋を渡ったすぐ先の路肩に止めた（Ｐ）。現状は橋にゲートあり。

友人は林道に沿う沢を詰めたが、多少遠回りでも林道を歩いたほうが時間的には早いと思われる。谷を東から回り込み、大丸山北東の鞍部にでる。林道はさらに北に尾根を回り込んで行く。

当時広い鞍部には工事現場のプレハブが立っていた。その前から南西を目指して登る。明るい雑木の斜面、３月初旬で藪も無く難なく山頂に立てた。ピンクのテープが下がっているだけで標識も無い。展望も雑木でほとんど得られない。

GPS軌跡を間違って消してしまい、ほぼ同時期に歩いた友人の軌跡（大丸山は帰りの軌跡）を使用して破線を作成した。

事務局だより

【主な活動・事業・イベント】

〈2018年７月〉
■健康登山塾第４回（7/7　赤城・黒檜山）
■ぐんま県境稜線トレイル全線踏査１（7/14・15　鳥居峠～四阿山～毛無峠）
■第29回支部例会（7/18　高崎・南公民館）
■日本山岳会全国支部懇談会（7/21・22　北海道・大雪山）
■ぐんま県境稜線トレイル全線踏査２（7/28・29　毛無峠～渋峠）

〈８月〉
■ぐんま県境稜線トレイル全線踏査３（8/4・5　渋峠～野反湖）
■ぐんま県境稜線トレイル全線開通（8/11　谷川岳天神平で予定されていた記念セレモニーは前日の防災ヘリの事故により中止）
■山の日イベントin谷川岳（8/11・12　谷川岳周辺）
■山の日記念「21世紀の森まつり」（8/11　沼田、川場・21世紀の森）
■ぐんま県境稜線トレイル全線踏査４（8/18・19　野反湖～白砂山～三国峠）

〈９月〉
■ぐんま県境稜線トレイル全線踏査５（9/1・2　三国峠～谷川岳）
■健康登山塾５（9/8　赤城・地蔵岳）
■ぐんま県境稜線トレイル全線踏査６（9/15・16　谷川岳～蓬峠～土合　全線踏査を完了）
■第30回支部例会（9/19　高崎・南公民館）
■上州武尊山スカイビュートレイル（9/22～24　上州武尊山周辺）
■日本山岳会支部合同会議（9/29・30　東京・四谷）

〈10月〉
■ぐんま県境稜線トレイル毛無峠～渋峠間ライド（自転車部　10/5）
■埼玉支部との合同自然観察会（10/13　沼田・玉原）
■健康登山塾６（10/13　赤城・荒山）
■尾瀬合宿（10/13・14　尾瀬・ロッジ長蔵）
■黒檜山家族登山とキャンプファイヤー（10/20・21　赤城・黒檜山他）

〈11月〉
■木暮理太郎翁碑前祭（11/3　太田・生誕之地碑）
■第31回支部例会（11/28　高崎・南公民館）

フルーエヒュッテからの夜明けのマッターホルン（撮影：寺内正明）

〈12月〉
■日本山岳会支部連絡会議（12/1　東京・新宿）
■日本山岳会年次晩餐会（12/1　東京・新宿）
■群馬支部役員会（12/4　前橋・Mサポ）
■支部報ぐんま県境稜線トレイル踏査記念特別号発行（12/25）

【今後の予定】

＊山行や行事の日程、場所等変更される場合があります。変更時および新規決定時はメールでお知らせします。

〈2019年１月〉
■平成31年度支部事業予算提出（1/15）
■第33回支部例会・新年会（1/16　前橋・ラシーネ）
■支部報第９号発行（１/16）
■平成31年度支部事業計画書提出（1/31）

〈２月〉
■日本山岳会関東四支部合同懇談会（2/16・17　千葉・鴨川市内浦）

〈３月〉
■木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会総会（3/3　太田・強戸行政センター）
■第33回支部例会（3/20　高崎・南公民館）
■チャレンジキッズ、スノーシュー体験

〈４月〉
■栃木支部虹芝寮スプリングキャンプ（4/6・7　谷川岳・虹芝寮）

〈５月〉
■通常総会・第34回支部例会（5/15　前橋・中央公民館）
■日本山岳会全国支部懇談会（5/25・26　栃木・奥日光）

日本山岳会群馬支部報　第9号　2019年1月16日
発　行：公益社団法人　日本山岳会群馬支部
Tel 027-333-4372
〒379-0109 安中市秋間みのりが丘5-169（北原方）
発行者：北原　秀介　　編集者：根井　康雄
印　刷：上武印刷株式会社